九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

アーティスト・プロフィールの役割に関する一考察：ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルのプログラム冊子を題材として

小谷，多幸
九州大学大学院芸術工学府コンテンツ・クリエーティブデザインコース

https://doi.org/10.15017/19604

出版情報：芸術工学研究. 14, pp.81-89, 2011-03-31. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン：
権利関係：

報告・資料

アーティスト・プロフィールの役割に関する一考察

ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルのプログラム冊子を題材として

Suggestions in Writing Convincing Artist's Profile

Based on Excerpts from Booklet of the International Chopin Piano Festivals in Duszniki-Zdroj

小谷多幸
KOTANI Tayuki

Abstract

In Duszniki-Zdroj, a country town in southwest part of Republic of Poland, there is a music festival which has continued for 65 years. It is the International Chopin Piano Festival in Duszniki-Zdroj. The author visited this annual event in 2009. Generally, when attending classical music concert, before listening to the performance, we often read the profile of the musician written in the handbill or program booklet. There are as many interpretations as the number of musicians so the individuality of each artist decides about the character of the concert and our will to attend such events. Artist's profiles are also one of the most important mediums which inform the audience about the appearing musician beforehand and can be the first clue to knowing something about them for the audience. These can also be the most important promotion tool for musicians. Most musicians, not only the young, make their profile by themselves, however, because of their lack of making knowledge and ineffectiveness, there are unconvincing for audiences. Actually, how are the artist's profiles written and what do they tell to us? The purpose of this text is to analyze artist's profiles, consider the important role of such tools and think through how to write a profile with bigger effect. Analysis samples were taken from the program booklet of the Festival, because this festival invites young talented pianist from all over the world with the main purpose of promoting them.

1. はじめに

ポーランド共和国の田舎町に，65 年間続く音楽祭がある。1 日につき 2 つのピアノリサイタルが 9 日間にわたって催されるドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル[1]である。

筆者は 2009 年にこの音楽祭を訪れ，そこで配布される分厚いプログラム冊子を手にした。クラシック音楽の演奏会に行く時，私たちは，会場に足を運ぶ以前，或いは，演奏を聴く前やその途中に，チラシやプログラム冊子に書かれた演奏家のプロフィールを読んでいることが多い。これは，演奏家の数だけ楽曲に対する解釈があるため，クラシック音楽の演奏会においては，「演奏者は誰であるか」ということにその演奏会は個性付けられることが多いためである。

出演演奏家について事前に観客に知らせる媒体として主なものが演奏家を紹介するプロフィールである。聴衆にとって，演奏家について知る最初の手掛かりともなり得るアーティスト・プロフィールは，演奏家にとっての最も重要なプロモーションツールでもある[2]。

しかしながら，新人の音楽家に限ってのことではないが，アーティスト・プロフィールは音楽家自身によって作成され，その役割や有効性について問われることの少ないままその後世の中に出ることが多いのが現状のようである。

それでは，アーティスト・プロフィールは実際どのように書かれ，何を伝えるものとなっているのか。

世界中から才能ある若いピアニストたちを招待し，彼ら演奏家のプロモーションを理念のひとつに掲げるドゥ

シニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルにおいて，アーティスト・プロフィールのカタログのようなプログラム冊子を手にした時，以上のようなことを考えさせられた。プログラム冊子のスタイルは 1990 年以降ほとんど変わっていない。本稿では，筆者が実際に演奏を聴いた第 64 回のプログラム冊子に掲載のアーティスト・プロフィールを対象として分析を行うこととし，演奏家のプロフィールが果たし得る役割の一端について考察することを目的とする。

尚，ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルは，主に近隣ヨーロッパ諸国からの訪問客で演奏会は常にほぼ満席状態であり，そのためにアメリカ，アジアなど遠方の国においての宣伝活動を自粛していることを主催者自身が明言している[3]。したがって我が国においてそれほど知られていたわけではなく，学会等においてもこれまでに詳細な報告はなされていない。そこで，まず，当フェスティバルについての概要，構成について報告をする。

2. ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル

2. 1. 音楽祭概要

ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル（Miedzynarodowy Festiwal Chopinowski w Dusznikach Zdróju）は，ポーランド南西部ドルノシロンスキ県のドゥシニキ・ズドゥルイ（Duszniki Zdroj）[4]で，毎年夏に開催されている。2010 年に 65 回を迎えたフェスティバルは，現在芸術監督を，ピアニストでワルシャワのショパン音楽大学の教授であり，ショパン国際ピアノコンクールの副審査員長でもあるピオトル・パレチニ氏（Piotr Paleczny）が務め，ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル委員会（The Foundation of International Chopin Festivals in Duszniki Zdrój）が主催運営を行っている。

音楽祭は約 10 日間にわたって催される。期間中は毎日 16：00 と 20：00 にコンサートがあり，公演の殆どがピアノリサイタルで，主にその年に国際的に活躍した若手のピアニストが出演の招待を受けている。公演は，シンフォニーの 1 公演を除く全ての演奏会が，ショパン館（Dworek Chopina）（図 1）と名付けられたサロン（図 2）で行われる。このサロンの座席数は通常 240 席であるが，330 席まで増席可能となっており，どの公演のチケットもほとんど完売する。サロンの外には，隣接して野外テントとその中に公演を映し出すスクリーンが臨時的に設けられ，立ち見客も出る。また，午前中は国外から特別に招待された著名な教授によるピアノのマスタークラスが毎日開かれ，受講生には，音楽祭の期間中にその成果をコンサートで発表する機会が用意されている。公演は，国際的に活躍するピアニストを国外から招待するだけでなく，「ユースプロモーション（Youth Promotion）」と題するポーランド人の若いピアニストを推薦するコンサートも企画されている。

このように，現在のドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルは，若い世代の才能あるピアニストをポーランド国内外から招待し，紹介することを音楽祭のミッション[5]のひとつにしている。この特徴は，音楽祭期間中に配布されるプログラム冊子にも顕著に表れている。200 数十頁にも渡る分厚い冊子は，その半分を音楽家のプロフィールが占めるものとなっている。（図 3）

図 1；ショパン館外観（中央）

図 2；オープニングコンサートの様子
ショパン館内のサロン。オープニングトークを行うピオトル・パレチニ氏（左）

図 3；ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバのプログラム冊子
左上より，第 55 回（2000），第 58 回（2003），第 49 回
第 61 回（2006），第 62 回（2007），第 64 回（2009），
左下より，第 31 回（1976），第 43 回（1988），第 36 回（1981），第 44 回（1989）のもの

2. 2. 音楽祭のプログラム構成

ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルは，約 15 のピアノリサイタルの他，以下のイベントや公演が恒例的に催される。初日に行われるショパンの記念碑への献花式，教会でのコンサート（図 4），室内楽のコンサート，そして，「ユースプロモーション」，「ノクターン（Nocturn）」と題された２つのコンサートと，初日から音楽祭最終日まで午前中に毎日行われるマスタークラスと呼ばれるピアノの講習会である。

「ユースプロモーション」は，ポーランドの新人ピアニストの育成と紹介を目的としたコンサートである。

「ノクターン」は最も人気のある企画のひとつで，ショパン館の中央にピアノが配置され，それを囲むようにキャンドルとテーブル，椅子が並べられた会場で行われる。出演者，プログラムは事前に観客には知らせられず，主にその年の音楽祭出演ピアニストがダイジェスト的に登場し演奏するスタイルのコンサートである。

マスタークラスでは，毎年２名の著名な教授のピアノのレッスンが公開されている。１日あたり 35 ズオティ[6]で聴講は自由である。マスタークラスの受講生及び「ユースプロモーション」の演奏家は，事前にポーランド人の音楽大学生または卒業生の中から選抜される。

また，フェスティバル２日目以降は，日刊の音楽祭新聞が発行され，音楽祭の様子や演奏家のインタビュー，楽曲解説や演奏会の聴きどころを観客に知らせている。

図 4；教会のコンサート

図 5；日刊の音楽祭新聞

3. アーティスト・プロフィールの分析

3. 1. 分析対象

本研究では，音楽家のプロモーションの重要な役割を担うと考えられるアーティスト・プロフィールが，実際にはどのように書かれているか，その傾向を明らかにするために，音楽祭のプログラム冊子に掲載のアーティスト・プロフィールを題材として分析を行った。

分析対象としたドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルは，招待される演奏家は主にピアニストであり，プロモーションの対象として相応な能力をもつ新人を世界中から厳選して紹介するフェスティバルである。従って，それら新人は音楽家としてのジャンルや年齢や境遇に共通点が多く，本論の目的であるアーティスト・プロフィールを比較するのに適した素材である。そのアーティスト・プロフィールは，フェスティバル開始後の初期のものを除いて，ほぼ毎年同じような形態で書かれている。そこで，分析の対象を筆者が実際に訪れた第６４回ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェステ

ィバルのプログラム冊子に掲載のアーティスト・プロフィールに絞り分析を行った。

今回分析の対象としたアーティスト・プロフィールは，男性 7 名，女性 6 名の 17 歳から 37 歳までの計 13 名[7]のもので，平均年齢は 23 歳となっている。第６４回には，全部で 16 名のピアニストが招待されたが，音楽祭のオープニングとクロージングコンサート出演のピアニストと特別枠で招待された 60 代のベテランの計 3 人[8]については分析対象から除外した。

3. 2. 分析方法

フェスティバルのプログラム冊子は，見開き左頁に演奏プログラム，右頁にアーティスト・プロフィールとなっており，それぞれ，ポーランド語，英語，ドイツ語の３カ国語で記載されている。このうち，英語による 13 名のアーティスト・プロフィール全テキストを用いた。アーティスト・プロフィールの書き方に関して，主催者側からの条件は文字数の制限に留まり，これらは全て自由形式で書かれたものである。

分析は，テキストマイニング（Text mining）の手法を用いて行った。テキストマイニングとはデータマイニング（Data mining）の手法の一種で，定型化されていない文章の集まりを単語や文節に分割し，その出現頻度や相関関係を分析して有用な情報を抽出する手法である。

この方法を用いて本研究では，アーティスト・プロフィールのテキストデータを形態素解析し，品詞別に出現頻度，出現順序を可視化する方法で行っている。

先ず，形態素の列に分割し，それぞれの品詞の判別を行った。そのうち，固有名詞に関しては，「教授名」「国名」「指揮者名」というような属性を表すワードに置き換え，助詞や冠詞などの不要品詞については除外し，全ての形態素について出現頻度を調べた。そこから更に，形容詞だけを抽出したものの出現頻度，また，動詞だけを抽出したものの出現順序について可視化し，考察を導く資料とした。

3. 3. 分析結果

今回対象としたアーティスト・プロフィールにおいて，最も出現頻度の高い単語は「コンクール（competition）」であった。続いて，出現頻度の高い順に「国名」，「賞（prize）」，「教授名」，「オーケストラ名」，「ホール名」，「音楽祭名」，「指揮者名」，「受賞（won）」，「都市名」となっている。（図 6）

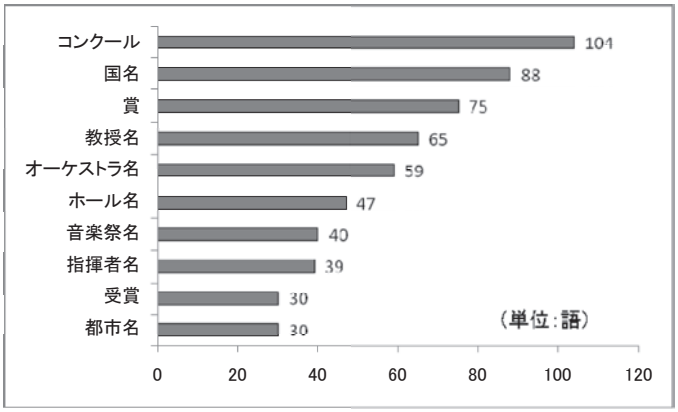

図 6； 出現頻度の高い単語上位 10 語

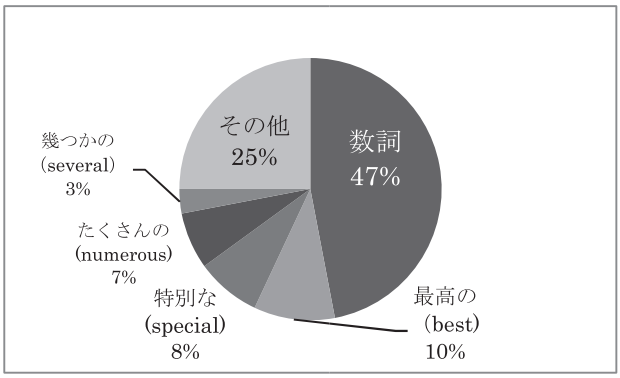

図 7； 形容詞の出現頻度

その他の 25%の中には，演奏家の個性やその活動の特徴を印象付けるキーワードが存在した。*historic* ceremony，*youngest* pianist who ever signed a recording contract with EMI，“she has got the *fastest* finger in the world”，the *best* performance of *classical* concert，*debut* concert in Moscow，the *best* interpretation of a *contemporary* piece がそれであるが、13 名のアーティスト・プロフィールテキストのうち，形容詞を用いた記載はこれだけとなっていた。

表１は，動詞を出現順序に沿って時系列に並べたものである。先述の通り，当フェスティバルの主催者は，演奏家にアーティスト・プロフィールの提出を求める際，それら形式に関して制限をつけていない。自由形式で作成されたはずのプロフィールであるが，こうしてみると書かれ方にあるパターンがみてとれる。それは，最初に出身地（born①）を紹介し，ピアノを始めた年齢に関して記述し（began②，start②’），専門教育を受けた場所や教授（study③）を提示し，受賞した賞名の列挙（won④，received④’）へと続く一連の流れである。図８で提示するアレクサンドラ・シヴィグトのアーティスト・プロフィールも，この様な流れで書かれている。

こうしてみていくと，13 名のうち一つだけこれにあれはまらない例外が図６内の第９列目（網掛けで示した部分）にみつけられる。これは，韓国出身のピアニスト，イム・ドンヒョク（Lim Dong-Hyek）（図 9）のものである。イム以外の 12 名のアーティスト・プロフィールにおいて，出生地，生年月日，出身校に関するものが最初の情報として提示されているのに対して，リムのものは“born”，“study”が導くこのような情報は最後に出現している。また，作曲家や作品名などの一般的で具体的な情報を始めに載せており，出場したコンクールや受賞歴に関する記載を後半でしていることは，その他のアーティスト・プロフィールには見られなかった特徴である。

表 1; 13 名のアーティスト・プロフィールにおける動詞の出現順序

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
BORN①	BORN①	BORN①	BORN	BORN①	BORN①	BORN	BORN①	applaude	won④	BORN①	BORN	be
began②	be	began②	①	start②	*studied*③	①	graduat-	-d	BORN①	got	①	reputed
*study*③	won④	emi-	began	*study*③	completed	began②	ed	regard	partici-	admitted	began②	awarded
received④	be	grated	②	com-	improve	gradu-	*study*③	be	pated	recog-	gave	④
won④	partici-	contin-	en-	plete-d	be	ated	be	signed	won④	nize-e	lived	award④
partici-	pated	ued	tered	*study*③	won④	*study*③	per-	released	won④	gained	won④	received④
pated	be	received	began	be	partici-	began②	formed	received	receive④	followed	be	BORN①
performed	partici-	④	②	perform	pated	invited	partic-	released	be	became	won④	live
performed	pated	attend	be	be	do	give	pated	per-	win④	became	give	began②
sponsored	invited	be	lead	won④	collabo-	gave	be	forme-d	got	be	recorded	learn③
be	performed	gradu-	in-	be	rated	per-	won④	greed	admitted	rewarded	won④	won④
	given	ated	vited		directed	formed	received	appeared	awarded	hear	per-	became
	performed	do	expect		live	occupied	④	be	④	won④	formed	*study*③
		earned			be	received	per-	BORN①	graduated	per-	played	recognized
		appeared				④	formed	*study*③	receive④	formed	toured	won④
		won④					renamed	*study*	invited	be	have	got
		have							followed	per-	played	be
									appeared	formed		give
										gave		played

網掛けで示す１列目はアレクサンドラ・シヴィクト（図 8）のプロフィールに関するものであり，9 列目はイム・ドンヒョク（図 9）のものである。[7] また，図中の①～④の番号は，それぞれ図 8 図 9 内のものと対応している。

SATURDAY, 8th AUGUST
4.00 PM

DWOREK CHOPINA

Piano Recital
The Laureates of the All-Poland NIFC Piano Competition

ALEKSANDRA ŚWIGUT

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) – *Sonata in D Major* KV 311–284c (1777)
Allegro con spirito
Andante con espressione
Rondeau. Allegro

Frédéric Chopin (1810-1849) – *Andante Spianato and Grand Polonaise in E flat Major* Op. 22 (1830-1835)

Karol Szymanowski (1882-1937) – From the cycle *Masques* Op. 34 (1915-1916)
1. Sherezade
2. Tantris the Buffoon

INTERMISSION

JULIA KOCIUBAN

Frédéric Chopin (1810-1849) – *Scherzo in C sharp Minor* Op. 39 (1839)
– *Nocturne in E flat Major* Op. 55 no. 2 (1842-1844)
– *Ballade in F minor* Op. 52 (1842-1843)

Johannes Brahms (1833-1897) – *Intermezzo in A Major* Op. 118 no. 2 (1892)

Ferenc Liszt (1811-1886) – *Spanish Rhapsody* (1863)

96

ALEKSANDRA ŚWIGUT – the third prize laureate at the All-Poland Frédéric Chopin National Institute Piano Competition in Warsaw (December 2008). ① Born on 21 January 1992 in Nowy Sącz, where she began her education at the local State Music School, stage I and II in classes of Teresa Orchel and then Mariola Cieniawa-Puchała. Now she is a student of year four at the K. Szymanowski Comprehensive Music School, stage II in Warsaw studying with professor Piotr Pałeczny. She has already received numerous top prizes and awards at all-Poland and international piano competitions: All-Poland Radio Bis Competition – "Bach Junior" and "Haydn Junior" in Warsaw, 1st prize in Bydgoszcz, 3rd prize in Prague, 1st prize and Grand Prix in Konin, 2nd prize in Antonin (the International Piano Competition – "Chopin for the Youngest"), 1st prize in Kraków (the "EPTA" All-Poland Piano Competition), at the 7th Competition of the 20th and 21st Century Music in Warsaw, she won 1st prize in the category "The best concert with an orchestra" and 3rd prize in the category "Chamber Music" at the International Course "Morningside Music Bridge" in Calgary. She won 1st prize as a chamber musician with the representative Trio of K. Szymanowski Warsaw Music School at the 32nd All-Poland Chamber Music Competition in Wrocław. She participated in a lot of significant music festivals such as the International Piano Festival in Warsaw (2006, 2007), where she performed Beethoven's *Piano Concerto no. 1* with the Beethoven Academy Orchestra, the International Youth Meetings in Lvov (2008, 2009), the Beethoven Easter Festival in Warsaw and the "Stars Promote" in Jelenia Góra (2009). She performed with conductors: M. Dworzyński, Ł. Borowicz, M. Błaszczyk, P. Przytocki, M. Wolińska and M. Niesiołowski.

She was sponsored twice by the Ministry of Culture and National Heritage and since 2003 she has been the National Children's Fund and "Sapere Auso" Małopolska Scholarship Fund scholar.

② 演奏活動に関する記載（オーケストラ・指揮者・場所）
③ 獲得した賞名の羅列
④

97

図 8；アレクサンドラ・シヴィグトの演奏プログラム（2009 年 8 月 8 日）とアーティスト・プロフィール

訳；アレクサンドラ・シヴィグトはワルシャワ(2008 年 12 月)の全ポーランドフレデリック・ショパンナショナルインスティテュートピアノコンクールの 3 位受賞者。 1992 年 1 月 21 日にノヴィ・ソンチで①生まれる。そこは彼女が音楽学校で教育を受け②始めた場所で，第 1，第２ステージをテレサ・オーチェル，マリオラ・チェニーヴァ・プハワに③師事した。現在，カロル・シマノフスキ総合中等音楽学校の 4 年に在籍し，第２ステージをワルシャワでピオトル・パレチニ教授に③師事している。彼女は既に全ポーランドあるいは国際的なピアノコンクールで多数の最高位や賞を④受賞した。オールポーランドラジオビスコンクール，ワルシャワの「バッハ　ジュニア」「ハイドン　ジュニア」，ビドゴシチで 1 位，プラガで 3 位，コニンのグランドプリックスで 1 位，アントニン（国際ピアノコンクール「若者のためのショパン」）で 2 位，クラクフ（「EPTA」全ポーランドピアノコンクール）で 1 位，ワルシャワの第 7 回 20 世紀 21 世紀の音楽コンクールにおいて「オーケストラとのベストコンチェルト」部門で 1 位，「モーニングミュージックビリッジ」国際クラスにおける「室内楽」部門で 3 位を④受賞した。彼女は，室内楽の演奏家として，シマノフスキワルシャワ音楽学校のトリオでブロツワフにおける第 32 回全ポーランド室内楽コンクールで 1 位を④受賞。ベートーヴェンピアノ協奏曲をベートーヴェンアカデミーオーケストラと共演したワルシャワの国際ピアノ音楽祭（2006 年，2007 年），ルヴォヴのインターナショナルユースミーティングス（2008 年，2009 年），ワルシャワのベートーヴェンイースターフェスティバル，ジェレニアグラの「スタープロモーション」など数多くの有名な音楽祭で演奏した。彼女はこれまで，M. ドゥボジンスキ，L. ボロビッツ，M. ブワシュチク，P. プシトツキ,M. ヴォリンスカ，M. ニェシウォフスキら指揮者と共演。

文化省，財務省による二度の助成を受けており，2003 年以降は国の子ども基金と「サペーレ・オウソ」マーウォポルスカ奨学金の奨学生である。

LIM DONG-HYEK, applauded by audiences, critics and music lovers, he has been quickly regarded as one of the best pianists of his generation. At the age of 16, he was the youngest pianist who ever signed a recording contract with EMI Classics. His debut album with works of Chopin, Schubert and Ravel in the "Martha Argerich Presents" series, released in June 2002, received the "Diapason d'Or" award in France, the second one with Chopin's *Sonata in B Minor*, among others, was honoured with the *Le Monde de la Musique magazine* "Choc" award and the third one with *Goldberg Variations* and Bach's *Chaconne from Partita no. 2 for violin* arranged by Busoni was released by EMI Classics in 2008. The pianist performed with the leading orchestras such as the NHK under Charles Dutoit, the St. Petersburg Philharmonic under Yuri Temirkanov, the National France Orchestra under Kurt Masur, the Radio France Philharmonic under Lawrence Foster and Myung-Whun Chung, the Warsaw Philharmonic Orchestra under Antoni Wit, the BBC Symphony Orchestra under Jiri Belohlavek, the European Union Youth Orchestra under Vladimir Ashkenazy, the Moscow Symphony Orchestra, the New Japan Philharmonic and the Israel Philharmonic. He was greeted with ovation at the Small and Great Halls of the Moscow State Conservatory, Théâtre des Champs-Elysées, Théâtre du Châtelet, the Salle Gaveau, Mann Auditorium in Tel Aviv, the London Wigmore Hall, the National Philharmonic Hall in Warsaw, the Walt Disney Hall in Los Angeles, the Konzert Hall in Berlin, Palais des Beaux-Arts in Brussels, Tonhallé Hall in Zurich, the National Concert Hall in Taipei, Symphony Hall of the Auditorio National de la Musica in Madrid, Seoul Arts Center in Republic of Korea, Suntory Hall, Osaka Philharmonic Hall and Tokyo Opera City Concert Hall in Japan and Lincoln Center in New York. He has appeared at renowned festivals, including the Verbier Festival, the Klavier-Festival Ruhr, La Roque d'Anthéron, the Montpellier Radio France Festival, the Piano aux Jacobins Festivals and Martha Argerich Festivals in Lugano and Beppu.

He is a laureate of 2nd prize at the International Chopin Competition for Young Pianists in Moscow (1996), 5th prize at the Busoni Competion (2000), 2nd prize in Hamamatsu (2001), the Premier Grand Prix and five special prizes for the youngest winner in the history of the Marguerite Long–Jacques Thibaud Competition (2001), the 3rd prize at the Chopin Competition in Warsaw – the first Korean in the history of the festival (2005) and 4th prize at the Tchaikovsky Competition in Moscow (2007). ①

Dong-Hyek Lim was born in 1984 in Seul. After early studies at the Korea National University of Arts' Pre-College, at the age of 14he ② began his studies at the Moscow State Tchaikovsky Conservatory in the class of Professor Lev Naumov and after graduation he studied with Professor Arie Vardi in Hochschule für Musik und Theater in Hannover. Now he is studying at the Juilliard School with Professor Emanuel Ax.

③ 生まれた場所や学んだ教育機関，教授名が最後に出現している

作曲家名，作品名などの一般的で具体的な情報が最初に出現

演奏活動に関する記載
（オーケストラ名，指揮者名，ホール名，音楽祭名）

図 9；リム・ドンヒョクのアーティスト・プロフィール

訳；イム・ドンヒョクは聴衆、評論家、および音楽愛好者によって拍手喝采され、すぐに彼の世代の最も優れたピアニストの一人と見なされた。 16 歳のときに、彼は、エミ・クラシックスと契約した最も若いピアニストであった。 ショパン、シューベルト、ラヴェルの作品が録音された「マルタ・アルゲリッチ　プレゼンツ」シリーズにおけるデビューアルバムは 2002 年 6 月にリリースされ、フランスにおける「ディアパソン　ドール」賞を獲得。ショパンの変ロ短調のソナタがはいった 2 枚目は，雑誌「音楽の世界」の“ショー”賞で称えられ，ゴールドベルグ変奏曲とブゾーニ編曲のバッハ作曲のヴァイオリンのためのパルティータ 2 番が録音された 3 枚目は 2008 年にエミ・クラシックスから発売された。イムは，これまでにチャールズ・デュトワ指揮の NHK や、ユリ・テミルカーノフ指揮のペテルブルクの聖ペテルブルグ管弦楽団、ローレンス・フォスター、ミュングー・フン・チャン指揮の管弦楽団、アントニー・ヴィット指揮のワルシャワ管弦楽団、ジリ・ベロフナヴィック指揮の BBC 交響楽団、ウラディミール・アシュケナージ指揮の EU ユースオーケストラ，新日本フィル，イスラエルフィルと共演。モスクワ州のコンセルヴァトリーの大小のホール，キャンプエリゼ劇場，シャトル劇場，ガヴォーホール，テルアビブのマン　アウディトリウム、ロンドンのウィグモアホール、ワルシャワのナショナルフィルハーモニックホール、ロサンゼルスのディズニーホール、ベルリンのコンサートホール；　ブリュッセルのボーザール宮殿、チューリッヒのトンホーリホール、台北のナショナルコンサートホール、マドリードのアウディトリオ・ナショナル・デ・ラ・ムジカシンフォニーホール、大韓民国のソウル・アート・センター、日本のサントリーホール、大阪フィルハーモニックホール、東京オペラシティホール、およびニューヨークのリンカーン・センターのナショナルコンサートホールで大喝采でむかえられた。彼は，ヴェビエルフェスティバル，ルールクラヴィーアフェスティバル，ラ・ロック・ダンテロン，モントペリエラジオフランスフェスティバル，ジャビンのピアノフェスティバル，ルガーノと別府におけるアルゲリッチフェスティバルのような有名な音楽祭に出演してきた。

モスクワにおける若いピアニストのための国際ショパンピアノコンクールで 2 位（1996 年），ブゾーニコンクールで 5 位（2000 年），浜松で 2 位（2001 年），マルゲリータ・ロング・ジャック・ディボードコンクールのプレミアグランドプリックスと歴史上もっとも若い受賞者のためにおくられた５つの特別賞（2001 年），韓国人として初のワルシャワのショパン国際コンクールで 3 位（2005），モスクワのチャイコフスキーコンクール（2007）で 4 位。

イムは 1984 年ソウルで①生まれた。韓国における芸術のプレカレッジのナショナル大学で③教育を受けた後，14 歳でモスクワチャイコフスキーコンセルヴァトワールのレフ・ナウモフ教授のクラスで③学び②始め，卒業後，ハノーファ音楽演劇大学でアリエ・ヴァルディに③学んだ。現在は，ジュリアードスクールでエマニュエル・アックスに③師事している。

4. 考察

分析の結果,対象とした演奏家のプロフィールにおいて使用頻度の高い単語は，コンクール名，国名，賞名，指導者名をそれぞれ表す固有名詞であることが分かった。同じ固有名詞でも，楽曲名，作曲家名などは殆ど出現していない。使用された形容詞の約 7 割が賞を修飾するものであり，中でも数詞がその 5 割以上を占めていた。演奏スタイルなど，演奏をイメージさせるような記述や，演奏家としての特徴を表す記述は殆どみられなかった。このことは，演奏家は，自身のプロフィールに掲載する情報として，コンクールでの受賞歴，国外での演奏歴を重要視している傾向にあることを表している。また，演奏家が発信するこれらの情報は，その内容によってではなく，ほぼ時系列にそって羅列される傾向にある。

しかしながら，掲載されているほとんどの情報は，それについての特定の知識を読み手が事前に持っていなければ，内容を理解できないものである。例えば，アーティスト・プロフィールに頻出するコンクール名については，該当のコンクールまたは受賞者の沿革等に関する事前の知識をなくして，それらの質についての価値判断をすることはできない。教授名についても，多くは，ピアノを専攻している者にとってはある程度馴染みのある名前であっても，演奏会や CD 録音などの活動を行ってない教授の名前については，一般的に馴染みが薄い。同様に，共演した指揮者名やオーケストラ名などの固有名詞それぞれについても，その価値判断をするためには，アーティスト・プロフィールには書かれている以上の知識を必要とする。

このように書かれたアーティスト・プロフィールは，ドゥシニキ・ズドゥルイの音楽祭に多くみられるような音楽の専門家やリピーターには有効な情報であっても，そうでない一般の観客に対しては理解や価値判断が困難で，有効な情報とは言い難い。つまり，客観的な事実としては信用性の高いものであっても，例えば新しい聴衆獲得のために，プロモーションの役割を果たすものとして期待するのであれば,その有効性は低いと考えられる。

聴衆拡大のためには、エントリー層に働きかけるマーケティング，マネジメントが効果的であることは山田(2008)の研究[9]で既に証明されている。つまり，場合によって，演奏家または演奏会主催者は，ターゲットとする観客層によってアーティスト・プロフィールの書き方を工夫することが求められるということになる。

5. おわりに

演奏家のプロフィールが，主に受賞歴，学歴，過去の演奏場所の履歴の羅列にとどまり，演奏における音楽的個性を伝えるものとなっていない傾向にあるのは，ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル出演演奏家のものに限ったことではない。受賞歴，学歴，活動歴は，将来プロの演奏家を目指す子どもたちが通る道筋の可能性を提示するものとして，特定の観客には大変有効な情報ではある。しかし一方，それ以外の一般的な観客にとっては馴染みがないだけでなく，価値判断が困難であるならば，受賞歴，学歴，過去の演奏場所の履歴の羅列が目立つアーティスト・プロフィールは，場合によっては，公演や音楽家から新しい観客を遠ざけるものとして機能する可能性を含有する。そこでアーティスト・プロフィールには，学歴，受賞歴，演奏場所，共演者など過去の音楽活動に関する事実の列挙だけでなく，演奏家の音楽的個性を物語る客観的情報も積極的に取り入れるなどの工夫が必要であると考える。例えば，コンサート評などの音楽評論や専門家の推薦文を取り入れることなども有効であろう。

専門的活動だけでなく，自身の活動のマネジメントやプロモーションを兼業する現代の多くの音楽家にとって，本稿がアーティスト・プロフィールを書く際の有用な資料のひとつとなるためには，今後，分析対象を拡大する必要があり，またプロフィールを受け取った聴衆の受け取り方について検討していくことも必要である。

注及び参考引用文献

1) 英語表記の公式なものは The International Chopin Piano Festival in Duszniki-Zdroj となっているが，本稿では，オリジナルの Międzynarodowy Festiwal Chopinowski w Dusznikach-Zdroju に基づいて音楽祭名を「ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル」と訳している。

2) Angela Myles Beeching（箕口一美訳）『BEYOND TALENT 音楽家を成功に導く 12 章』, 水曜社出版, 2008, p. 54-61。同書で著者アンジェラ・マイルズ・ビーチングは第 3 章「使える」売り込み資料としてプロフィールを挙げ,「どのように使われるにせよ，プロフィールは，読み手が音楽家にもつ印象を左右する宣伝ツールとして機能する」と述べている

3) ドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバル委員会会長であるアンジェイ・メルクル（Andrzej Merkur）氏のインタビューに基づく。インタビューは，筆者が 2009 年にドゥシニキ・ズドゥルイ国際ショパンフェスティバルを訪れた際に行った。

4) ポーランド共和国南西，チェコ共和国との国境近くに位置する人口約 6000 人，総面積 23 平方キロメートルの町。観光を主な産業としてお

り，著名な観光名所として鉱泉がある。中世の時代に既に存在したドゥシニキ・ズドゥルイの鉱泉の水は，心臓，胃腸，他にも様々な病気に効くとされ，若いショパンやメンデルスゾーンも療養のために訪れた。ドルノシロンスキ県（Wojewodztwo dolnoslaskie）は，ポーランド共和国の 16 の行政区分のうちのひとつである。

5) フェスティバルのミッションは，ドゥシニキ・ズドゥルイの町の宣伝すること，ショパンの作品解釈の理解を深めること，ポーランドのピアニストをプロモーションすることであったが，1970 年代頃よりこれに世界の若い音楽家のプロモーションが加わった。

6) ズウォティ（złoty）は、ポーランドの通貨単位である。1 ズウォティは 100 グロシュ。zł または PLN と表記される。

7) 13 名のピアニストは，(1)Aleksandra Swigut（ポーランド共和国），(2)Juria Kociuban（ポーランド共和国），(3)Daniel Vaiman（ラトビア），(4)Maria Kim（韓国），(5)Khatia Buniatishvili（グルジア），(6)Krzysztof Broya（ポーランド共和国），(7)Piotr Rozanski（ポーランド共和国），(8) Karolina Nadorska（ポーランド共和国），(9)Lim Don-Hyek（韓国），(10)Jue Wank（中国），(11) Claire Huangci（アメリカ合衆国），(12) Alexander Gavrlyuk（ウクライナ），(13)Alexej Gorlach（ドイツ）である。

8) Cyprien Katsaris(フランス)，Eugen Indjic（ベオグラード)，Nikolai Luganski（ロシア）の３名

9) 山田真一「オーケストラ鑑賞史上の現在－クラシック音楽マクロ状況と乖離するオーケストラ市場―」，『アートマネジメント研究』第 9 号，2008,p.38。同論文で山田は，聴衆を年間鑑賞回数が二桁以上の多数鑑賞者を「コア層」，年間鑑賞回数が数回程度（六回未満）の聴衆を「中間層」，年間鑑賞回数が二回以下の鑑賞者を「エントリー層」と分類した調査研究を行っている。